

# 第14回 青森県総合教育会議

日時：令和3年5月21日(金) 15:00～

場所：青森県庁南棟2階 第三応接室

## 次 第

1 開 会

2 議 事

「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画策定に向けた対応について」

3 閉 会

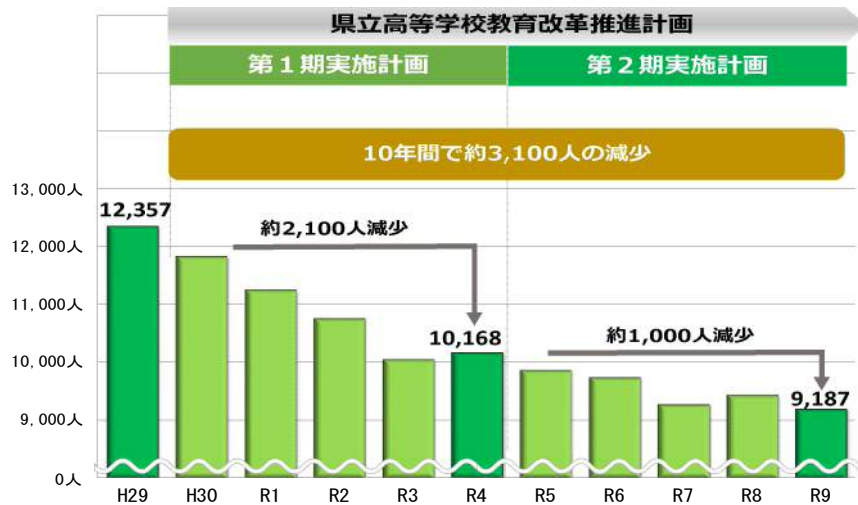
# 第14回青森県総合教育会議

青森県立高等学校教育改革推進計画  
第2期実施計画策定に  
向けた対応について

令和3年5月21日

## 1 高校教育改革の背景

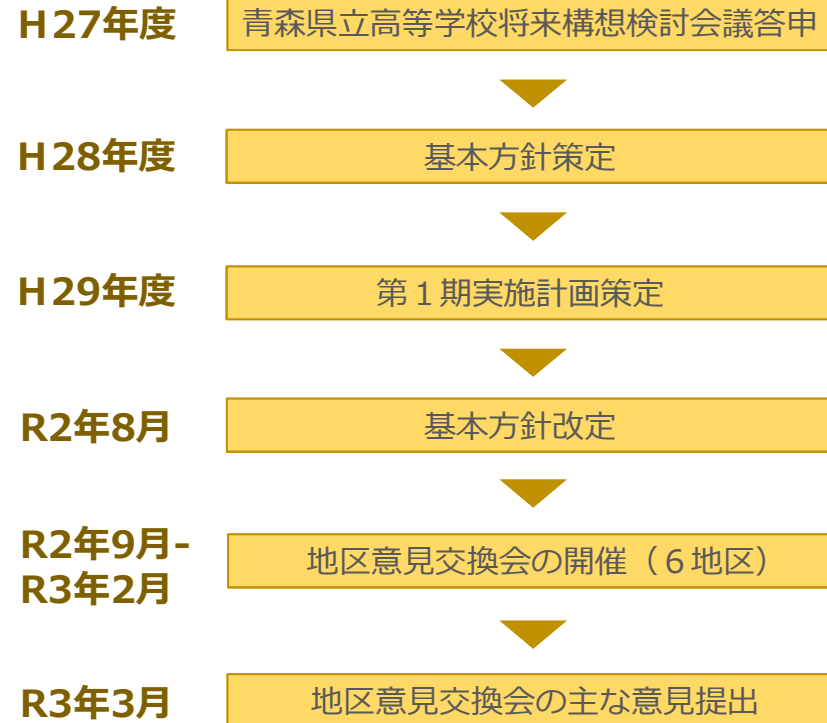
- 社会の急速な変化（グローバル化等）
- 高校教育を巡る環境の変化（学習指導要領改訂等）
- 進路志望等の多様化（高校等進学率 99%）
- 中学校卒業予定者数の減少



## 3 青森県立高等学校教育改革推進計画の構成

青森県立高等学校教育改革推進計画は、平成30年度から概ね10年間の県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す「基本方針」と、5年間の具体的な学校規模・配置等を示す「実施計画」で構成

## 2 これまでの高校教育改革の取組



# 4 基本方針（令和2年度改定）の概要 ---

## 計画策定の考え方

- 充実した教育環境の整備と各地域の実情への配慮の2つの点に留意しながら、県全体の高校教育を充実
- 県全体が一丸となって高校教育を推進する**オール青森**の視点
- 県立高校教育改革に関する情報を広く提供し、多くの意見を伺いながら、**県民の理解と協力**の下、計画を策定

## 重点校・拠点校の配置

普通科等の教育活動の中核的役割を担う「**重点校**」や、農業科・工業科・商業科の学習の拠点となる「**拠点校**」を配置し、各高校と連携しながら、特色ある教育活動を充実

### 【取組イメージ（重点校の場合）】



## 重点校



八戸高校（重点校）の取組例：  
サイエンススタディープロジェクト  
自然科学系の研究を行っている地域の高校生を対象に、大学教授を招聘し、研究方法等についての講義を開催

- ### 【第1期実施計画の配置】
- 青森高校
  - 弘前高校
  - 田名部高校
  - 五所川原高校
  - 三本木高校
  - 八戸高校

## 拠点校



五所川原農林高校（拠点校）の取組例：  
グローバルGAP認証取得支援  
グローバルGAP認証取得を目指す柏木農業高校に対し、ノウハウを提供するなどの支援を実施

- ### 【第1期実施計画の配置】
- 五所川原農林高校
  - 青森工業高校
  - 八戸工業高校
  - 三本木農業（恵拓）高校
  - 弘前工業高校
  - 青森商業高校

## 地域校の配置

学校規模の標準を満たさない高校であっても、募集停止等により高校の通学が困難な地域が新たに生じる場合は、「**地域校**」として配置

### 地域校

#### 【第1期実施計画の配置】

- 青森北高校今別校舎（1学級規模・R2募集停止）
- 木造高校深浦校舎（1学級規模・R3募集停止）
- 中里高校（1学級規模・R2募集停止）
- 田子高校（1学級規模・R2募集停止）
- 六ヶ所高校（2学級規模）
- 大間高校（2学級規模）

### 地域校の学級減等の基準

#### ■ 2学級規模の地域校

入学者数が**40人以下の状態が2年間継続**した場合、原則として**翌年度に1学級規模**

#### ■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が**2年間継続して2分の1未満（20人未満）**となった場合、募集停止等に向け、当該高校の所在する市町村と協議

なお、協議の際には、**基準に該当した翌年度の募集停止を基本**とし、通学について対応を検討

### 地域校の活性化に向けた対応

- 地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、**学校と地域等が一体となった検討**を促す

### 基本方針改定ポイント

- 地域校の基準に該当した場合の学級減等の時期を翌年度と明確化
- 地域校の活性化に向けて、学校と地域等が一体となった検討を促すことを追加

## 全日制課程の学校規模・配置の観点

### 高校教育を受ける機会の確保

#### ■ 各地区における中学生の進路の選択肢の確保

6地区ごとに、幅広い進路選択に対応する高校、選抜性の高い大学への進学に対応する高校、実践的な職業教育に対応する高校等を配置

#### ■ 通学環境への配慮

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

### 充実した教育環境の整備

- 学校規模の標準を設定し、一定の学校規模を維持することにより、本県高校教育全体の質の確保・向上を図る

#### 【学校規模の標準】

##### 基本となる学校

1学年当たり**4学級**以上

##### 重点校

1学年当たり**6学級**以上

##### 拠点校

1つの専門学科で1学年当たり**4学級**以上

## 学校配置の方向性

### ■ 全日制課程

中学校卒業予定者数の推移、中学生のニーズ等に対応しながら計画的な学校配置を推進

### ■ 定時制課程

6 地区ごとの配置を基本

### ■ 通信制課程

東青・中南・三八地区への配置を基本

## 学校・家庭・地域等との連携

高校間	生徒による合同研究や教員研修等の連携 など
小・中学校	キャリア教育、英語教育等の推進のための 連携 など
特別支援学校	障害等に関する教員研修や人事交流等の推 進 など
大学等	大学進学を志望する生徒の進路選択に役立 てるとともに生徒の能力を伸長させるため の連携 など
家庭・地域等	自ら地域の課題を発見・解決する教育実践 の推進 など

## 教育活動の充実に向けた取組

### ■ 教員の資質向上

教員の資質向上のための研修の充実



### ■ 専門スタッフの配置の充実

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門スタッフの配置の充実



### ■ ICTの活用による教育活動の充実

高校のICT環境の整備を進め、ICTを活用した教育活動の充実



### ■ 全国からの生徒募集

より充実した教育環境の実現を図るため、全国からの生徒募集の導入について、地域の協力状況等を踏まえ検討

など



### 👉 基本方針改定ポイント

- 全国からの生徒募集の導入について、地域の協力状況等を踏まえ検討することを追加

## 5 地区意見交換会の主な意見 -----

第2期実施計画の策定に当たり、地域の実情を踏まえた意見をいただくため**地区意見交換会**を開催し、県立高校の学校規模・配置等について意見を聴取

なお、学校規模・配置については、委員の意見に基づく学校配置シミュレーションを作成し、効果や課題について意見を聴取

### 【地区意見交換会の委員構成】

#### [委員]

##### ■ 学校教育関係者

市町村教育委員会教育長／小・中学校長／元県立高校長／私立高校長

##### ■ P T A 関係者

##### ■ 産業界関係者

[オブザーバー] 県立高校長／関係特別支援学校長

### 重点校・拠点校・地域校の配置

- 重点校・拠点校については、第1期実施計画と同様の配置で良い
- 重点校・拠点校の枠組みの見直しを検討する必要がある
- 鱒ヶ沢高校及び三戸高校を新たに地域校とした上で、高校の活性化を進めてほしい
- 六ヶ所高校及び大間高校は引き続き地域校として存続してほしい

### 全日制課程の学校規模・配置

地 区	委員の意見に基づく学校配置シミュレーション
東青地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> <li>✓ 重点校を青森高校と青森東高校として配置</li> <li>✓ 青森西高校と浪岡高校を統合して新設校を配置</li> <li>✓ 青森北高校と浪岡高校を統合して新設校を配置</li> </ul>
西北地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> </ul>
中南地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> <li>✓ 拠点校を弘前工業高校と柏木農業高校として配置</li> <li>✓ 弘前南高校を3年間校舎化した上で募集停止</li> <li>✓ 第2期実施計画期間中に学級減を行わない</li> </ul>
上北地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> <li>✓ 重点校を三本木高校と三沢高校として配置</li> <li>✓ 複数校を統合して普通科と専門学科を選択的に学べる新設校を配置</li> </ul>
下北地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> <li>✓ 大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置</li> <li>✓ 田名部高校と大湊高校を統合して新設校を配置</li> <li>✓ 第3期実施計画において、むつ市内の3校を統合して新設校を配置</li> </ul>
三八地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学級減で対応し、全ての学校を配置</li> <li>✓ 三戸高校と名久井農業高校を統合して新設校を配置</li> </ul>

### 「全ての学校を配置」に関する意見

#### 効果

- 各校が存続することにより、中学生が各学校の特色に応じて進学先を選択できる
- 地域に学校を残し、生徒に地域の良さを知ってもらい、それを将来に結び付けていくことで地域活性化を図ることができる

#### 課題

- 学校の小規模化により、教員数が減少するため履修できる教科・科目が限定されることや、生徒数も減少するため学校行事等の諸活動が制限される
- 小規模化した高校では、専門外の教員による教科指導の実施や部活動への影響等が想定され、教育環境の質が低下する

### 「学校の統合」に関する意見

#### 効果

- 統合により教員数の確保、必要な教科・科目の維持、部活動の活性化が見込まれ、生徒のニーズに応えられる
- 一定規模が確保され、多様な学科の設置や生徒の進路選択の確保などの面でメリットが大きい

#### 課題

- 県立高校の空白地が更に大きくなるため、通学距離が長くなり時間がかかる
- 学校を統合すると、これまで各校が作り上げてきた伝統や特色が消える

### 定時制課程・通信制課程の配置

- 基本的に現状維持で良い



### 全国からの生徒募集

- 将来的な移住のチャンスも期待できるため、速やかに導入すべき
- 地元の子どもの学習機会を奪われることがないように県外生徒の定員の制限も考えていく必要がある
- 市町村が県外生徒の生活環境への支援をどれだけできるかが課題
- 全国的に見て特色や魅力のある高校で導入してはどうか
- 特色ある教育を行っている工業や農業などの専門学科へ導入してはどうか
- 寮が整備されている農業科や水産科を有する高校から導入してはどうか
- 入学者数の確保のため、地域校に導入してはどうか
- 他県からの注目度の高い部活動を有する高校へ導入してはどうか



## 6

## 第2期実施計画策定に向けた基本的な方向性 -----

通学環境など**各地域の実情に配慮**しつつ、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けられるよう**一定の学校規模を維持**することとし、**統合等を含む計画的な学校配置**を行う

**全国からの生徒募集**については、**第2期実施計画に盛り込む**こととし、**県外生徒の定員の制限**も視野に入れつつ、**導入対象校を限定**した上で導入する

第2期実施計画策定までの流れとして、**令和3年7月頃の計画案の公表**、**7～8月頃の地区懇談会の開催**や**パブリック・コメントの実施**を経て、**10月頃の計画決定**を目指す